

2022年 AIBA 認定貿易アドバイザー試験サンプル問題（国際マーケティング）

問1. 組織購買行動は消費者購買行動と異なる特徴がある。組織購買行動の特徴として最も不適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 取引の専門性
- 2 高い価格弾力性
- 3 長期的な取引関係
- 4 合理的な意思決定

問2. 新製品の市場投入時の政策として、低価格を設定し、短期間に拡大を目指す戦略をとることがある。この時の価格政策として最も適切なものを以下の中から選びなさい

- 1 市場浸透価格
- 2 割引価格
- 3 心理的価格
- 4 上澄み吸収価格

問3. マーケティング戦略の4Pのうち、Placeの要素に流通政策がある。流通政策のうち、もっとも流通業者のコントロールがしやすく、また自社製品の価格やブランドを保全できる政策として最も適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 開放的流通政策
- 2 選択的流通政策
- 3 段階的流通政策
- 4 排他的流通政策

問4. マーケティング戦略を検討する際には、売り手視線の4P分析に対し、買手視点の4C分析がある。ロータボーンが提唱する4Cの要素として最も不適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 お客様が負担するコスト
- 2 お客様との共創
- 3 お客様にとっての価値
- 4 購入利用する際の利便性

問5. デジタルマーケティングにおいては、メディアの選択が重要な要素になる。このうちペイドメディアのメリットとして最も不適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 必要な露出期間だけ利用できる
- 2 SEO対策がしやすい
- 3 読者・視聴者が多い場合、即効性がある

4 企業やブランドの存在感を示しやすい

問6. サービスマーケティングを検討する際の考え方として、コトラーとケラーの唱えたサービストライアングルがある。サービストライアングルのうち、企業と従業員の関係に着目したマーケティング施策として最も適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 リレーションシップ・マーケティング
- 2 インターナル・マーケティング
- 3 エクスターナル・マーケティング
- 4 インタラクティブ・マーケティング

問7. グローバルマーケティングの発展段階として最も適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 国内→輸出→国際→マルチナショナル→グローバル
- 2 国内→輸出→マルチナショナル→国際→グローバル
- 3 国内→輸出→グローバル→マルチナショナル→国際
- 4 国内→グローバル→輸出→国際→マルチナショナル

問8. 日本貿易会が取りまとめた「日本貿易の現状 日本貿易の現状 Foreign Trade 2022」における、2021年の我が国の貿易収支と貿易総額に関する記述について、最も適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 2021年の貿易収支は▲1.5兆円となり、3年ぶりに貿易赤字となった。
- 2 2021年の貿易収支で黒字が大きかったのは、国別では対中国の5.9兆円であった。
- 3 2021年の貿易収支で赤字が大きかったのは、地域別では対中東の▲6.4兆円、国別では対オーストラリアの▲4.0兆円であった。
- 4 2021年の貿易総額は過去最高の200.7兆円となり、3年ぶりに増加した。

問9. 農林水産省が令和4年2月4日公表した2021年(1月-12月)の農林水産物・食品の輸出実績による下記の記述のうち、最も適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 2021年の農林水産物・食品の輸出額は、1兆2,385億円であった。
- 2 農林水産物・食品の輸出額が1兆円を突破するのは、2006年に政府が年間輸出額1兆円を目標と定めて以降2回目である。
- 3 輸出先は、1位が中国、2位がアメリカ、3位が香港であった。
- 4 輸出額の増加が大きい主な品目は、植木等、なまこ(調製)、魚油などであった。

問10. 国際コンテナ輸送を巡る最近の状況についての、国土交通省港湾局の令和4年3月

3日資料における下記の記述のうち、最も適切でないものを以下の中から選びなさい。

- 1 2019 年後半、コロナによる国際貿易への影響による先行き懸念から、新規コンテナ製造量が減少した。
- 2 2020 年前半、コロナにより中国における生産活動が縮小し、米国向けのコンテナ荷動きが低迷した。
- 3 2020 年後半、中国における生産活動が回復、北米等における巣ごもり需要もあいまって、米国向けのコンテナ荷動きが急拡大した。
- 4 2021 年、米国向け荷動き量が高止まりする一方、港湾から貨物を運び出すトラックドライバーやシャーシ、倉庫の空きスペースが不足し、貨物が滞留した。

問11. 我が国が締結する各経済協定連携とその HS バージョンとの組み合わせで、最も適切でないものを以下の中から選びなさい。

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 1 日シンガポール経済連携協定 / Japan-Singapore EPA | HS2002 |
| 2 日ペルー経済連携協定 / Japan-Peru EPA | HS2007 |
| 3 日タイ経済連携協定 / Japan-Thailand EPA | HS2012 |
| 4 日英包括的経済連携協定 / Japan-UK CEPA | HS2017 |

問12. 令和4年版通商白書において、「グローバルで4つのトレンドが加速している」としている。この4つのトレンドに含まれないものを以下の中から一つ選びなさい。

- 1 デジタル変革
- 2 地政学リスクの増大
- 3 気候変動等の共通価値の重視
- 4 少子高齢化社会の到来

問13. 令和4年版通商白書において説明されている、ロシアとウクライナへの食料輸入依存度に関する下記の記述のうち、最も適切でないものを以下の中から選びなさい。

- 1 小麦輸出は、ロシアが世界第1位である。
- 2 小麦輸出は、ウクライナが第2位である。
- 3 トウモロコシ輸出は、ウクライナが世界第4位である。
- 4 トウモロコシ輸出は、ロシアが世界第11位である。

問14. 令和4年版通商白書において説明されている、ロシア・ウクライナによる希少品目の輸出に関する下記の記述のうち、最も適切なものを以下の中から選びなさい。

- 1 ロシアのニッケル埋蔵量は世界第1位である。
- 2 ロシアのスポンジチタン生産量は世界第3位である。
- 3 ロシアのパラジウム生産量は世界第5位である。

4 ウクライナはヘリウムガスの主要な生産国である。

問15. 令和4年版通商白書において説明されている、日本とロシアとの貿易に関する下記の記述のうち、最も適切でないものを以下の中から選びなさい。

- 1 日本・ロシア間の貿易規模は、日本の輸出総額の1.0%、輸入総額の1.8%である。
- 2 日本は、ロシアへ主に電子電気機器や電子部品を輸出しているが、日本の対世界貿易に占める割合は比較的小さい。(電子電気機器・電子部品輸出の3.3%、2.8%)
- 3 我が国はロシアから主にエネルギー関連品目を輸入しており、同国への輸入依存度が高い品目がある(天然ガス・石炭・石油輸入の7.4%、10.2%、3.7%)。
- 4 2021年の日本のロシアへの輸出総額は8,624億円、ロシアからの輸入総額は1兆5,489億円であった。

<解答>

問1	2
問2	1
問3	4
問4	2
問5	2
問6	2
問7	1
問8	3
問9	1
問10	1
問11	3
問12	4
問13	2
問14	2
問15	2

